

○ 新たな基準値について

来年から放射性物質の基準は、表5のとおり変更されますが、これまでの調査により、40gの茶葉から90℃、1,200ccの湯で60秒間の浸出時間で抽出した場合(農林水産省調査)、飲用茶の放射性セシウムは荒茶の1/50程度(表4)となりました。

(荒茶及び製茶と飲用茶の関係については、今後詳細に調査する予定ですので、これは参考値と考えてください。)

表4 放射性セシウムの割合

	湯、茶葉の量	荒茶/飲用茶	産地
セシウム含有量	1,200cc、40g	1/59	関東地方 南部
		1/51	
		1/50	
	430cc、10g	1/85	静岡県

湯温 90℃、60 秒間での抽出

表5 食品中の放射性セシウムの新たな基準値案 (ベクレル/kg)

食品群	基準値		食品群	基準値
野菜類	500	見直し	一般食品	100
穀類	500			
肉・卵・魚・その他	500			
牛乳・乳製品	200			
飲料水	200			
			牛乳	50
			飲料水(茶)	10
			乳児用食品	50

○今後の対策

平成24年産の一番茶における放射性セシウムの含有量につきましては、静岡県茶業研究センターにおいて、早期に調査を実施(3月下旬から4月上旬予定)し、情報提供をまいります。

また、静岡県の掛川市立総合病院の鮫島医師は「緑茶には、カテキンなどの体に良い成分があり、メタボ予防効果や、認知症の予防効果など健康に良いことが判明されており、緑茶を飲まないことが、いかに体に良くないかを多くの人に伝えたい」とおっしゃっています。

本県では、これからも放射性物質の低減対策とモニタリング検査を実施し、科学的なデータに基づき、技術対策をきっちり行うとともに、正確なデータを公開することで、安全なお茶を提供し、安心して飲んでいただきできるよう、関係機関と一体となって取り組んでいます。